

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690200106		
法人名	医療法人 三幸会		
事業所名	ケアサポートセンター千本今出川(グループホーム)		
所在地	京都府京都市上京区元誓願寺通千本東入元四丁目424番地の2		
自己評価作成日	平成26年3月17日	評価結果市町村受理日	平成26年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2690200106-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西陣で京町屋の雰囲気を大事にした建物になっている。
 事業所内も木の温もりを大切に家具などを使用している。
 食事は手作りで作り、利用者様と一緒に作るようにしている。
 小規模多機能型居宅介護事業所との併設でもあり、お互いに交流を持てるようになってきている。
 児童館との交流会も定期的に行き、障害のある・なしに関係なく過ごせる時間を設けている。

当該事業所は近隣の児童館の子どもたちとの交流を通して地域との関わりを深めています。流し素麺のイベント時に招待されたり、月2回子どもたちの訪問があり、利用者と一緒に遊んだり、笛の演奏を披露してもらうなどの交流が利用者の楽しみ事となり良好な関係が築かれています。また家族との関わりを大切にしており、年3回家族会を開催し活発な意見交換を行ったり、入居時には家族と面談を行い、面会の機会を多くもってもらうことやホームの行事の時には必ず参加してもらうなど家族に対して協力を仰ぎ、家族と共に利用者を支援しています。職員は法人内外の研修会に積極的に参加し、伝達研修を行ったりホームでの取り組み等について法人全体で研究発表するなど、日々の支援を常に振り返りながらより良いケアとなるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念として、「一日一笑」「一喜一憂」「一期一会」を掲げ、入居者様に「あなたに会えてよかった」と言われる介護サービスの実現を目指し取り組んでいる。	人との出会いを大切に、日々寄り添いながら笑って過ごせるような事業所にしたいという思いを込めて、職員間で話し合い作成した事業所独自の理念を掲げています。職員会議で理念の振り返りを確認を行い、実践に向けて取り組んでいます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所時より、地区社協の行事参加や児童館との交流が行えている。食材も地元のスーパーの協力を得ており、地域の開業医様複数にかかりつけ医としてかかわって頂いている。	自治会に加入し、運営推進会議等で地域の情報を得ています。散歩時には近隣の方と挨拶を交わしたり買い物なども地域の店を利用するなど地域との関わりが深まるよう努めています。月2回児童館の子どもたちの来訪があり、笛の演奏を聞いたり一緒に遊ぶなど交流を図っています。また、中学生の体験学習も受け入れています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医療法人三幸会として、地域向けに認知症勉強会を開催している。また認知症利用者様を散歩や買い物等で外出いただくことで、地域住民との関わりを持って頂いている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開所時よりご家族様等多くの方にご参加いただいている。ご本人様や、ご家族様の思いを直接聞き取り、日々のケアや行事、家族会などに活かしている。	会議は社会福祉協議会会長、家族、地域包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月に1度開催しています。ホームの状況や研修、事故報告等を行い、参加者からも多くの意見をもらい有意義な会議となっています。会議での意見を受け室内の乾燥を防ぐため加湿器を設置するなど、速やかに対応しています。出された意見に対しての結果は会議の中で報告し、サービスの改善に活かすよう努めています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上京事業所連絡会に参加し、介護保険行政担当者との連携を行っている。	運営推進会議の議事録を直接届けたり、わからないことがあれば相談をするなど日頃から関わりを持つよう心がけています。2ヶ月に1回行われる上京区の連絡協議会や行政から案内がある研修会などに参加し意見交換をするなど協力関係が築けるよう努めています。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束防止マニュアルを作成し、職員全員に開示している。事業所としては年一回ペースで研修を実施。外部研修にも参加して、事業所内での伝達研修も行っている。	職員は年1回法人内での研修を受け不参加の職員には伝達講習を行ったり、職員会議で言葉の制止などの事例を挙げ話し合いを持つなど、身体拘束についての理解を深めるよう努めています。玄関は開錠し自由に出入りできるようにし、外に出たい様子が見られた場合は一緒に散歩を楽しんだり、興味のあることに目を向けてもらうなど閉塞感のないケアに心がけています。不適切な言動が見られた場合は管理者が注意をしたり、職員同士で互いに注意し合うこともあります。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所としては年一回ペースで研修を実施。外部研修にも参加して、事業所内での伝達研修も行っている。	

ケアサポートセンター千本今出川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見とも、事業所として、管理者による研修を実施している。小規模多機能型居宅介護事業所で、両制度の申請者もおられ、事例検討としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとって説明を行っている。不明点等がないかの確認も行い、安心して契約をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前年度より満足度アンケートを作成して配布し、意見や要望等を聞いている。問題としてあげられた点については、すぐに改善の取り組みを行っている。	法人で行うアンケートや年3回の家族会、運営推進会議、面会時等に意見や要望を聞くようにしています。掃除についての意見を受け職員間で話し合い、徹底した掃除の実施に取り組むなど改善に向けて取り組んでいます。また外出時には必ず利用者の要望を取り入れるよう努めています。アンケートの結果や改善点については家族に報告をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、職員会議を開き、職員同士で意見の交換を行っている。会議後には議事録を作成して配布し、全職員に周知を行っている。	日々の業務や職員会議、職員対象のアンケートの中でも多くの意見や提案が出ています。外出支援時の職員体制についての意見があり職員間で話し合い法人本部に挙げ、運転業務職員が配置されるなど改善に向けて取り組んでいます。また、食事をおいしく摂ってもらうために代替食を導入するなどサービスの向上にも反映させています。法人担当者の行う随時のヒアリングもあり、職員が相談や意見を出せる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料・賞与等良い待遇を維持して頂いている。処遇改善の費用等、非常勤の勤務者に対しても公平である。資格手当や、時間外手当など必要な金額はすべて支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームヘルパー2級養成校を開催し、法人職員は低額で受講できる体制がある。介護福祉士、ケアマネージャー資格取得についても支援がある。また研修担当者を決め、法人内外の研修実施・参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各行政区での事業者連絡会をはじめ、医師会、グループホーム協議会などの参加をすすめ、事業所での伝達研修に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期情報把握後の面接を多く行い、ご本人の思いや、維持されている能力の把握に努めている。また、ケース記録を詳細に記載し、ケアプランに活かし、全職員が統一した対応を行えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人への意向確認と並行して、家族の意向確認も実施している。家族の本人に対する思い、家族状況等を詳細に把握し、事業所として対応できることを提案している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いや家族の思いをしっかりと時間をかけて傾聴し、また現在のご本人の身体能力や精神機能を総合的に判断した上で、適切な支援を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所職員全員が、大きな意味での家族として存在し、本来の家族と本人への支援について、介護する者・される者とならないよう心がけて、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、家族には面会をお願いし、本人と家族との絆はもとより、職員とも連携をとって頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、家族には外出をお願いし、一緒に外食して頂いたり、ドライブへ行って頂いたりしている。	友人、知人の来訪があり居室で一緒にお茶を飲みながらゆっくり過ごしてもらえよう配慮しています。利用者が以前に住んでいた所や神社など馴染の場所へドライブしたり、馴染みの店で買い物をするなど今までの関係が途切れないよう希望に応じて支援しています。また墓参りや美容院など家族と話し合いながら日程調整や外出準備等の支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	開所時より女性9名が入居中。体調不良時などは心配して「どうしてはるの？」など、入居者同士が関わり合い、支えあっている場面も見られている。		

ケアサポートセンター千本今出川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、サービス利用終了者はおられないが、終了後も随時、相談に応じる体制を取れる事業所構築に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前、利用中に関わらず常に最新の情報収集に努め、職員同士の意見交換も行き、必要なケアを提供している。	入居時に利用者や家族から生活歴や好み、身体状況、ホームでの暮らし方の希望等聞き取り、思いの把握に繋げています。日々の会話や様子、表情等から知り得た情報は日々の介護記録に残し、カンファレンスで本人本位に検討し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前、利用中に関わらず常に最新の情報収集に努め、職員同士の意見交換も行き、必要なケアを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に最新の情報収集に努め、職員同士の意見交換も行き、必要なケアを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集を十分に行い、必要なケアを提供できるよう介護計画を作成している。作成した介護計画は、毎日チェックを行い、現状に即したケアに活かしている。月一回の職員会議でも話し合いを行っている。	利用者、家族から聞きとった意向を基に介護計画を作成しています。計画に沿った日々の介護状況や身体状況等を記載することによりモニタリングを行っています。6ヶ月毎に見直しを行い、日々の記録やカンファレンスでの職員の意見を基に再アセスメントとサービス担当者会議を開催し、必要に応じて医師や訪問看護師などの意見を反映させ現状に即した介護計画となるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた点は記録に残し、日々の申し送り時に、ミニケアカンファレンスを行って、現状に即した臨機応変な対応がとれるよう配慮している。月一回の職員会議でも話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員同士が常に連携をとり、入居者の日々の変化に柔軟に対応できるよう心掛け、固定観念に囚われないケアを行っている。		

ケアサポートセンター千本今出川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常に家族や医療機関、行政機関との連携をとることで、本人が本人らしく生活できるよう、ケアを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、月2回の往診と、毎日のバイタル測定で、異常の早期発見を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。また緊急時には事業所職員が付き添い、受診対応を行っている。	入居時に希望のかかりつけ医を選んでもらい、ほとんどの利用者がホームの協力医に変更をしています。受診の際は職員が同行していますが必要に応じて家族が行くこともあり、書面や口頭で相互に報告し情報を共有しています。月2回の医師の往診や週1回の訪問看護があり、健康管理を行っています。緊急時は救急搬送をすることもあります。歯科は希望に応じて往診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成24年12月より堀川病院訪問看護ステーションとの連携をとっている。小規模内にも非常勤の看護師がおり、必要に応じて、グループホーム入居者への対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には退所サマリーを活用することで、医療機関への情報提供を行ったり、問い合わせに対応している。退院時には医療機関からのサマリーを職員全員が閲覧することで、早期のADL回復を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、対応が必要なケースはないが、看取りについての勉強会をかかりつけ医が講師となって平成25年に開催済み。事業所職員や家族が参加している。今後も随時実施していく予定。	ホームとして看取り支援を行っていきたくて考えていますが、医療行為が必要になった場合は入院や他施設施設への入所申し込み等も含めて検討しています。過去には事業所内で看取り支援についての勉強会を行ったこともあり、今後ホームでできることを話し合い職員間で方針を共有し、家族や訪問看護の協力も得ながら進めていきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所職員が必要な救命講習を受講済み。法人での講習・研修も参加している。AEDも設置済みで早期の救命対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防火避難訓練を実施。消火器の使い方などの指導を受けており、疑問点等を質問してアドバイスをもらっている。電話には住所を書いたメモを貼り、緊急時には慌てず通報ができるように工夫している。	消防署立ち合いの昨年2回、併設の事業所と合同で昼夜間を想定し通報や初期消火、避難誘導、消火器の使用方法等の訓練を行っています。終了後には消防署員からアドバイスをもらったり、時にはAEDの使用法について学ぶこともあります。運営推進会議で訓練の案内や報告を行っています。過去に地元の消防団に声を掛け、参加をもらったこともあり、今後地域住民へ参加を依頼し協力関係を築いていく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者ケアの本質として、人権と人生の先輩に対する敬意を持つよう常に指導している。また月一回の職員会議でも議題となり、呼称を「利用者様」で統一するよう指導している。	職員は法人内研修で接遇等について学ぶ機会があり、参加した職員が伝達講習を行い周知に努めています。トイレへの誘導時や排泄時の声掛け等に配慮し、入室時は必ず声を掛けるなど日々の言葉遣い等も含めて注意を払うよう心がけています。不適切な言動が見られた場合はリーダーが注意をしたり職員間で互いに注意をし合っています。職員会議等では事例を挙げながら話し合いを持つこともあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が自己決定できるよう、開かれた質問や閉ざされた質問など、形式を工夫してケアにあたっている。また夜勤帯でも、本人の希望があればゆっくりと話す時間を作って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務のスケジュールは存在するが、それにとられることなく、その日の利用者の状況に応じた対応をして、無理強いしないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きなおしゃれについて、家族にも依頼して用意している。カットやお化粧などの対応も、事業所内や外出することでできる範囲は対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りでの調理を心がけ、入居者にも手伝ってもらい、時には教わりながら調理を行っている。また嚥下に問題のある利用者については、キザミ食などで対応している。	献立は1週間毎の食事担当者が利用者の好みを聞いて立てています。食材は近くの商店から届けてもらっていますが、足りないものは利用者と一緒に買いに出かけています。野菜の下処理や調理、味付け、配膳、洗い物、食器拭きなどのできることに携わってもらい職員と共に会話を楽しみながら同じ食卓を囲み食事を摂っています。プランターで採れた野菜などが食卓に上ったり、外食、出前なども楽しみなものとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を常に記録し、状態の把握に努めている。月二回の体重測定も行って、体調管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施している。介助が必要な利用者については、職員がブラッシングを行っている。必要時には歯科の往診も依頼して、おいしく楽しく食事が取れるよう配慮している。		

ケアサポートセンター千本今出川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの観察や、入浴時には下着の確認を行って、陰部の清潔を維持できるよう努めている。介助が必要な場合は、本人の羞恥心に配慮し、ケアを行っている。	排泄記録によりパターンを把握し声掛けや誘導を行い、できる限りトイレで排泄できるよう支援しています。紙パンツから布の下着に移行した方もおり、自立に向けた排泄支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医との連携や、水分摂取、運動などで自然な排便コントロールができるよう努めている。排便状況は常に記録し、職員が情報を共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状、週2～3日の入浴で対応している。利用者ごとに入浴日は決めているが、その日の体調に合わせて臨機応変に対応している。	週に3回を目途に午前、午後とも希望に沿って入浴の支援をしています。ゆっくり入りたい方については職員が浴室から離れ思い思いに入浴できるように配慮したり、毎日の入浴も可能で湯温についても意向に沿って支援しています。湯は毎回入れ替え清潔に心がけ、利用者と一緒に準備を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は可能な限り離床していただき、夜間に安眠できるよう心掛けている。また夜間は1時間に1回の訪室で、エアコンや加湿器などを調整し、気持ちよく眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬局とも連携することで情報提供を受けている。お薬情報もファイルし、全職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の職歴や趣味、家事などから、できることを把握し、得意分野で力を発揮し、自信に繋げていけるよう支援している。お手伝いをして頂いた際には必ず「ありがとう」の声掛けを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望と能力を見極めながら、近隣への散歩を頻繁に実施。冬季でも一階から二階、二階から一階へと工夫している。外出レクや買い物レクなども実施していく。	天気の良い日はできるだけ外出するよう心がけ、利用者の希望や能力を見極めながら散歩や買い物、ドライブに出かけています。公園や神社などに出かけ桜やつつじ等の花見や初詣など季節を感じてもらったり、食事外出なども楽しみなものとなっています。また玄関前のベンチで外気浴をすることもあります。	

ケアサポートセンター千本今出川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人より買い物の希望があれば、預り金からお金を出して買い物支援を行っている。買い物を行うことで、本人も社会参加ができていることを感じて頂けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば、電話の取り次ぎや、郵便局まで同行し、手紙を出している。家族や大切な人への連絡ができることで、本人も安心した生活ができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけを利用者、職員がともに作成し飾っている。季節を感じて頂くことで、認知症の見当識障害に対応する取り組みにもなっている。	リビングには随所に花が生けられ、利用者と共に作成した季節毎の作品を飾るなど、季節を感じる工夫をしています。畳コーナーは昔ながらの家具等を置き、落ち着いた雰囲気になっています。またテーブルや椅子、ソファの配置など随時変更し、利用者が過ごしやすいように工夫をしたり温度計や加湿器を置き快適に過ごせるよう配慮しています。毎日徹底した掃除を行い清潔保持にも努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士が座るテーブルとイスを配置している。またソファや畳を敷いた小上がりを設けてあり、利用者が思い思いの好きな場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みのある家具を使用してもらったり、写真などを飾って居心地のいい空間が提供できるよう配慮しています。また毎日、環境整備も行って清潔に保っています。	入居時に自宅で使用されていた物を持ってきてもらうよう家族に伝え、使い慣れたタンスや椅子、テーブル、テレビ、鏡などを持ち込まれています。また仏壇を置かれたり家族の写真などを飾るなど、その人らしく安心して暮らせるよう配慮しています。居室は畳敷きになっておりペットを置いたり、布団を敷いたり利用者の生活習慣や好みに応じて選んでもらっています。各居室には生け花教室で自身で活かした花が飾られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁にはカレンダー、廊下には手すり、トイレには介助バー、居室にはポータブルトイレを設置するなど、本人が安全に自立した生活ができるよう配慮しています。		